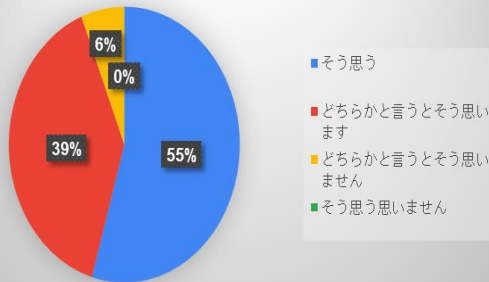


「チャレンジ。前へ！」～すべての那須高原っ子へ～

本校の一部教科担任制アンケート結果から

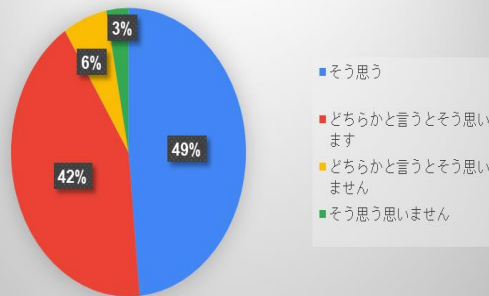
本年度から全国的に始まった高学年一部教科担任制。本校は単学級であるため、2クラス以上ある学校が実施できるような一部教科担任制とは異なります。実際には、理科専科教師が3年生から6年生の理科を受け持つこと、高学年だけではなく、各学年での教科担当を変えるなどの対応を行っています。これまで担任が一人で見えてきた小学校。複数の教師が学年に入り込み、担当する教科を指導する形式です。子供たちはどのように思っているのでしょうか。今回は5・6年生にアンケートを取ってみました。

担任以外の先生が授業をすることで授業が楽しいと思うようになりましたか



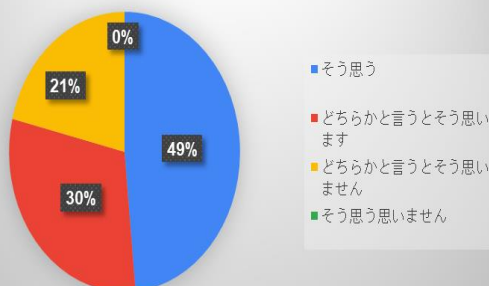
肯定的に捉えている児童が多数を占めました。肯定的な児童は、5・6年の94%をしめています。教師は教科によって「顔を変える」ということはあまり聞きません。担任の先生のカラーではない先生の授業は、子供たちにとって「新鮮」に映るのかもしれませんが、授業が楽しいと思えなかったという子供たちは全体の6%になります。値の大小はさておき、担任以外だから楽しくないのか、担任の授業と比較してのマイナスなのかを今後とも吟味する必要があります。

教科によって先生が変わることによっていろいろな教科が好きになりましたか



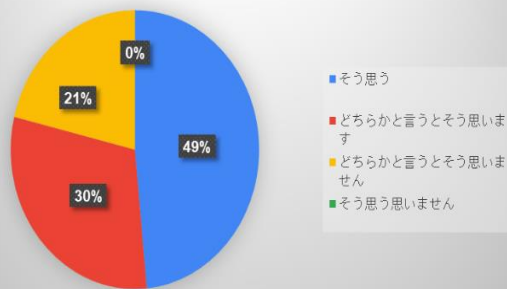
肯定的な意見は91%でした。2か月で「好きになる」と問う方に無理がありましたかね。ただ、良い方向になっていることは「どちらかと言うとそう思う」が42%いることから想像ができます。「そう思わない」と回答した児童は3%いましたが、今回のアンケートでは、この児童たちが「どちらかと言えばそう思う」ぐらいになれるようにしたいですね。

先生が変わることで気持ちを切り替えることができましたか



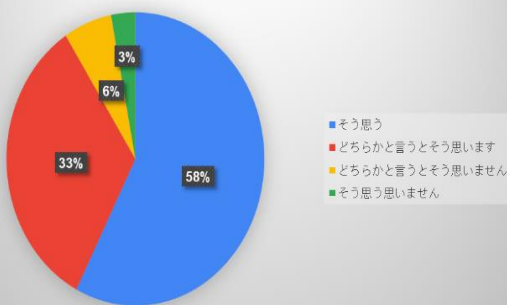
肯定的な意見は79%でした。児童の中では、担当する教師が変わっても同じように授業ができることが分かり嬉しい内容です。また、読み取り方次第では、苦手な教科でも先生が変われば「いける！」と感じてくれている児童が70%いるということです。マンネリという言葉は適切ではありませんが、少なからず児童に「ある変化」をもたらしていることは事実ですね。

先生が変わることでいろいろな先生と気軽に話せるようになりましたか



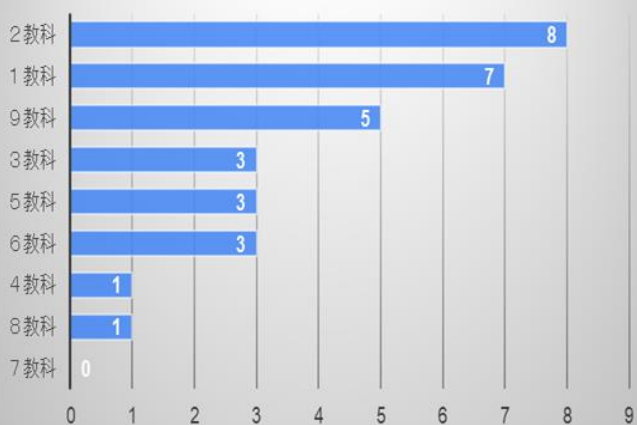
肯定的な意見は79%でした。前項質問と同じパーセント配分となりました。ただし、この結果は前項とは違い、少しでも肯定的な意見になるように私たちは努力しなければなりません。学級担任と同じように「ルール」(指導)と「リレーション」(支援)のバランスが担当する教員に求められるということです。「気軽さ」はあらゆる児童を救うための基底であると考えています。

教科によって先生がかわることは、自分にとってよいことだと思いますか

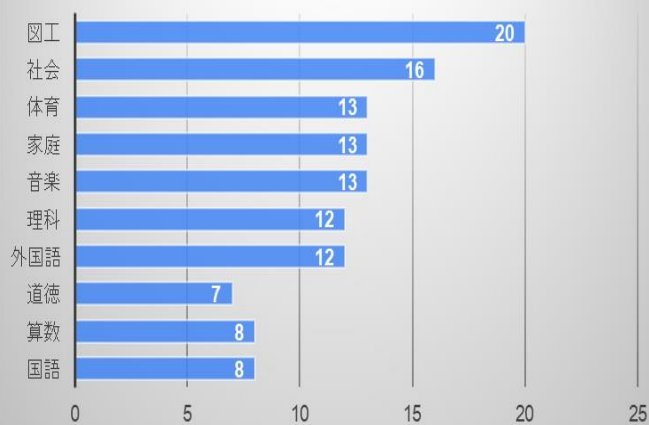


肯定的な意見は91%でした。自分の学習スタイルではなく、教員の授業スタイルが影響していると思います。重要なのは、「思わない・どちらかと言うとそう思わない」児童9%をどう救っていくかですね。「変わらない方が学習できる」と思っているのなら、学習指導主任を中心にして、再度授業スタイルの確認する必要があります。先生方にはマイナスと捉えず、授業の腕を上げるチャンスにしてほしいですね。

教科担任になってほしい教科数



教科担任制になってほしい教科



希望教科数は1教科や2教科が多かったですが、全教科を望んでいる児童も多いです。教科が多かったのは図工や社会などでした。国語や算数、道徳は担任が良いという意見が多いようです。この状況は、教員間でも同じで、国語や算数、道徳は担任が行った方がよいという意見も多いのです。

文科省は、①教科指導の専門性を持った教師が、質の高い指導を行うことが可能となること。②小・中学校間の連携による小学校から中学校への円滑な接続(中1ギャップの解消 等)につながる。③複数の教師(学級担任・専科教員)による多面的な児童理解を通じた児童の心の安定につながる。④教師のモチコマ数の軽減や授業準備の効率化により、学校の教育活動の充実や教師の負担軽減につながる。などの利点を挙げています。

「小学校は学級経営が基盤になるため、担任ではない教員が授業をすることは難しい」と言われてきました。まさに学級王国の考えだったのかも知れませんね。場合によっては素晴らしい結果をもたらす学級王国は、ひとたび崩れると取り返しがつかない状況に陥ります。本校では、上記の③を特に重要視しています。全員で那須高原小学校の子供たちを見取る「全員担任制」が実現したらとても嬉しいです。ぜひ次年度は「全員担任制」に向けて研究していきたいと考えています。